

教育課程編成委員会
平成 29 年度 第 1 回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：平成 29 年 10 月 26 日（木）18：30～20：00

場 所：修成建設専門学校 129 教室

2. 出席者

山下裕貴、堤下隆司、増田和浩、荒木伸輔、見邨佳朗、鍵谷啓太、釜友知與子

中島良明、中安哲男、明石祥子、亀井哲男

山本剛、東泰紀、田中義久、西濱浩次、佐藤栄一、小松原学、

辻祐樹、村橋昭洋、本田昌宏、竹中徹郎、瀧上郁織、村松雄一郎、森本和真、

大槻憲章

以上 25 名

3. 配布資料

資料 1-1：平成 29 年度第 1 回委員会 議事次第

資料 1-2：教育課程編成委員会 委員一覧

資料 1-3：平成 28 年度第 2 回委員会 議事録（案）

資料 1-4：話題提供者からの資料（別紙）

資料 1-5：「卒業展 2018」審査員依頼について

4. 議事次第

1 開会挨拶（資料-1）

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明があった。

山下理事長から挨拶および学園の現状について報告があった。

2 委員紹介（資料-2）

出席委員の確認を行い、各委員が自己紹介を行った。

3 議事内容説明

堤下校長から本日の議事内容について説明が行われた。

（1）第 2 回委員会議事録（案）の確認（資料 1-3）

増田委員から前回開催された平成 28 年度第 2 回委員会（平成 29 年 2 月 22 日実施）

の議事録を説明・確認し、その内容について全会一致で承認された。

(2) 平成29年度前期各学科報告

建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）、建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、専科2級建築士科、住環境リノベーション学科、土木工学科、建設エンジニア学科、ガーデンデザイン学科について、各科長並びに副科長から報告があった。主な内容は以下のとおりである。

①建築学科（昼・夜）、建築デュアルシステム科（夜）・・・増田委員

建築学科は第1本科（昼）と第2本科（夜）がある。第2本科には建築学科と企業連携として働きながら会社の中で一部、単位を取得する建築デュアルシステム科がある。在籍学生数は第1本科1年生224名7クラス、2年生212名6クラス、第2本科1年生19名、2年生36名で運営している。

昨年に引き続き第1本科（昼）は企業連携の一つとして夏休みにインターンシップ・オープンデスクを1年生中心に実施しており、進路決定の一助とし、また実務を経験することで業界への新たな理解が生まれている。今後、春休みにも多くの学生が社会体験できるよう実施する。

また、資格についても充実させている。就活を有利にするため、福祉住環境コーディネーター・宅地建物取引士・カラーコーディネーター・CAD検定等に加え、昨年度に本会で提案いただいた積算士補も74名が受験した。卒業後の建築士・施工管理技士に向かって指導体制を充実させたいと考えている。

一方、第2本科は、働きながら学ぶという目標で取り組んでいるため、時間を有効的に使い、夏休み・土曜日にも積極的に授業を実施している。

②建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、専科2級建築士科・・・見邨委員

デジタルあるはアナログの表現を重視した建築CGデザイン学科の特徴を生かすため、新たに3次元用プレゼンテーションソフトを導入した。

3DモデリングやCG動画の作成に取り組んだ。今後はより実写に近いCG作品を手掛け、プレゼンテーションを行っていききたい。

設計総論では3Dプリンターを用いて3DCADを立体化や輸入建材・部材の展示会に参加した。また空間デザイン学科と合同でパーステック検定講座、デジタルスケッチ講座を受講し、表現力の向上に努めた。

空間デザイン学科では、テキスタイルデザイナー、壁紙や内装といったインテリアデザイナーを講師に招き、空間演出の基礎を習得した。また和歌山県建築士事務所協会との協同し「第41回 建築士事務所全国大会 和歌山大会」で制作、展示を行った。専科2級建築士科の学科合格は7割を超えた程度であった。

様々なジャンルの業界人から講演をいただき前期を終えることができた。今後も先輩方の感性に触れ、成長させたい。

③住環境リノベーション学科・・・中島委員

現場に必要な知識、技能の習得を最重要項目をとして教育に取り組んでいる。キャリア教育所と産学連携で、技能講習や特別教育は予定通りである。また9月初旬に富士教育訓練センターで、1週間の合宿による現場作業実習等での業務内容、職種理解に努めた。

在学中に2級建築施工管理技術検定試験（学科）は全員合格を目標にしている。

11月の試験に向けて全力で支援をしていきたい。

④土木工学科、建設エンジニア学科・・・堤下委員

施工と設計の両方が慢性の人材不足で、求人を含め企業からの要望は多いが、土木系学科の入学者は少ない。昨年同様に富士教育訓練センターで、橋脚の足場、鉄筋、型枠の総合実習を実施した。西尾レントオールによる情報化施工に取り組んだ。

⑤ガーデンデザイン学科・・・中安委員

ガーデンデザイン学科では本年度から1・2年生共新カリキュラムで授業実施。旧カリキュラムからの改訂内容は、科目統廃合、科目名変更、実施時期変更、時間数・単位数変更等を検討し8科目を新設した。これにより科目間の連携が強化され「ものづくり」工程を順序立てた線で繋ぐ実践教育が容易になった。実習・演習は産・官・民及び地域との連携を柱とし、設計→プレゼン→積算→施工と一貫した実施を心掛けると共に、積極的なイベント参加の推進や学生の自主性を高める「教えない授業」にも取り組んでいる。

課題として学力のバラツキとシラバスの進捗・整合、通常授業とのスケジュール調整がある。

ガーデンデザイン科として2年生受験必須資格である造園施工管理技術検定は11月19日に全員受験予定。

造園技能士は34名受験31名合格であった。

卒業設計はアイワホーム様自社ビル屋上の庭園計画を課題設定、計画完成後アイワホーム様にプレゼン予定である。

(3) 話題提供「富士教育訓練センターの取り組み」

本会委員である富士教育訓練センター小松原 学 校長から（資料1-4）を基に、富士教育訓練センターの経緯・性格・施設概要・訓練内容・今後の取り組み等について説明があった。

4 各分野討議

建築関係と土木・造園関係に分かれてグループ討議

A) 建築グループ・・・司会：増田 記録：亀井

山下、増田、見邨、荒木、鍵谷、釜友、中島

山本、東、田中、西濱、佐藤、辻、村橋、本田、竹中 以上 17名

増田委員から「今後の業界の見通し、本校への要望等を聞かせていただきたい」とあり、外部委員から一人ずつ意見を求めた。

- ・基礎をしっかり教えていただきたい。(山本委員)
- ・世間の、特に若い方の建築積算に対する理解が一向に進まず、新たな人材を確保および育成が困難な状況にある。積算の魅力をもっと普及していただきたい。更なる積算士補の受験をお願いしたい。(東委員)
- ・人材不足は、この業界全体の給与が低いように思える。2020年東京五輪終了後は「減少」か「横ばい」との予想を耳にする。建築知識は基礎だけで十分である。基礎をしっかり学ばせれば、あとは企業が教える。(佐藤委員)
- ・自然環境保全や安心安全、空き家対策など地方自治体からの要望が多く寄せられている。特に専門的な知識を有する者が不足しているようだ。都市部から離れるほど顕著に表れている。インスペクション(住宅検査)を意識させ学生時代から総合図や施工図の重要性を説いていただきたい。土木の学生にもヘリテージ(遺産)と都市環境を身につけさせて保存と活用を考察させるべきである。(田中委員)
- ・自身ためと思う知識は身につくが、資格の為に覚える知識は身につかない。もっと未来を見据えて指導を心がけて欲しい。インターンシップなどを通じて実務を見せ、判断する力を養っていただきたい。施工や設計に限らず色々な体験をさせてほしい。建築家協会も積極的に学生を受け入れる。私は大きな声を出すことを教えている。喋らない学生が多い。インターネットを活用できる情報リテラシーにも取り組んでいただきたい。(西濱委員)
- ・新築物件は減る傾向にあるが、建築ストックは増えるであろう。有効利用やリノベーションは今後、社会が要求している。ディテールのデザインまでこだわるべきである。設計したものが10数年後も見劣りしない物であるのかを考えるべきだ。
(辻委員)
- ・人手不足の状態である。募集しても高齢の方が多い。そんな中で辞めていく者もいる。業界に留まるように指導していただきたい。(村橋委員)
- ・ゼネコンという仕事の内容を理解できずに辞めるものがある。インターンシップの経験が大事だ。CADを覚えることも重要である。
新入社員は、現場で幅広い人々を付き合いなくてはならない。コミュニケーションを大切にし、力をつけなくてはならない。また与えられたことではできるが、それ

以外のことはできない。応用力を身に着けるべきである。(本田委員)

- ・ 3点の要望がある。①自身のアピールが上手くできない。もっと面接の練習に時間を取ってほしい。問いかけないと答えないこともあった。②コミュニケーション能力が備わっていない。物事の背景を考えると、俯瞰して見ることを教えてほしい。③現場をもっと見せて欲しい。現場に出るとスキルが上がる。また10年後の自分を考えさせる時間も必要である。

B) 土木・造園グループ・・・司会：中安 記録：明石
堤下、小松原、瀧上、村松、森本、大槻 以上 8名

中安委員から「実践教育を行う上で様々な意見をいただきたい」と談話形式で意見交換がなされた。

- ・ 富士教育訓練センターでは高校生受講数の増加に伴い、どのような対応をされているのか(中安委員)
- ・ 訓練期間のはじめは教員が詳細に指導するなど関わることは多いが、その後は訓練生たちでコミュニティを造らせ、主体性・協調性を持たせ自ら学ぶ姿勢を身に付けさせるよう取り組んでいる。専門知識を学ばせることよりも前にその姿勢を身に付けさせることが重要。また、昨今では母親が建設業界に入ることを反対するケースが非常に多いため、小・中学生のうちにインフラ整備の重要性を教えるべきと考える。(小松原委員)
- ・ 土木と造園の違いが分からない学生も多い。高校生受講者の進路先はどのようなものか?(中安委員)
- ・ 東京では高校生受講者の80%が進学。大学はレベルを下げ学生数の確保を行って来たが、レベル低下が著しく、以前の状態に戻すところが増えてきているのが実情。それでも4年制大学のネームバリューを選ぶ親は依然多い。家庭環境による学生の資質問題や学費のトラブルも増えていると聞いている。修成ではどうか?(小松原委員)
- ・ 修成でも増えているように思うが、学科長として・クラス担任として接する学生は自分の子供と思って必要であれば厳しく指導している。
学生の資質問題について、傾向や意見をうかがいたい。(中安委員)
- ・ 個人差が大きいように感じている。工業高校の学生であっても優秀な子は多いが、大学へ行けない家庭問題が背景にある。また、企業は新入社員に対し1年間の研修を実施しており、その教育カリキュラムを考えて欲しいと言われることも多い。その際には専門学校に行かせることを勧めている。(小松原委員)

- ・技能、技術を教える上で大切にされていることは？（中安委員）
- ・取り組む姿勢を教えることの方が重要。社会に出れば縦割りの厳しさがある。学校でも学生を「辞めさせない、引き留める傾向にあるが、それよりももっと厳しさを教えるべき。その指導ができない為に離職率が高まっているということの問題視している。（小松原委員）
- ・工業高校の学生受講数が増えているのはなぜか？（大槻委員）
- ・事務的に専門性のあることを教えられない工業高校の先生が増えているため、受講生として、その先生や学生が増えている。富士教育訓練センターではゼネコンの社員を研修で受け入れた場合、先方から厳しい評価を受ける。その内容を踏まえて、毎年教育改善を行っており、それには先生の意識改革が必要不可欠である。（小松原委員）
- ・今年修成から3名が入社。CAD図面が描けるのは非常にありがたいが、手描き図面が描けない為、サイズ感など現実が理解できておらず、弊害として社内で問題になっている。CADオペではなく設計士が欲しいというのが本音。（瀧上委員）
- ・総合的な知識をもって専門性を持ち、今後の道を選ぶべきだということを富士教育訓練センターでも教えるようにしている。（小松原委員）
- ・コミュニケーション能力が低く、社会人として必要な「ほう・れん・そう」ができないなど、新入社員の資質で苦勞することが非常に多い。分からないことがあったら、すぐ他人を頼らず自力で調べ、自力で学ぶように、また、スマホやメールではなく、直接会話するようにと新入社員に指導している。その他、社会ではプレゼン能力が必須。自分の意見を伝える能力の向上に繋がるよう指導していくべき。（村松委員）
- ・若い社員は自分のしたいことだけする傾向にあり、社員教育を行う上で苦勞することが多い。一通りの業務の流れ、技能・技術を理解したうえで、業界人として、専門職としてより一層向上していったと指導に当たっている。（森本委員）

5 「卒業展 2018」 審査委員依頼について

平成30年2月3日（土）に実施することが決まった。審査委員長は本校教育顧問でもある西濱委員となった。

6 次回開催日時等の決定

日 時 平成30年2月21日

場 所 修成建設専門学校 129 教室

内 容 平成29年度全学科課程修了報告ほか

以上（記録・文責：亀井哲男、中安哲男）